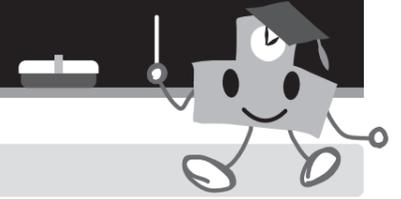


小学校の事例 白石区 上白石小学校

学校で育てたキバナコスモスが、地域に広がる。誇りをもって楽しく活動。

花壇づくりが地域に広がることで自然の大切さや環境に対する意識の高まりへとつながることに。



内容 全校で花を育て 花を植える

本校では、札幌市が行っている「花いっぱい運動」に参加し、植物を種から苗に育てて植え、まちに緑を増やす取組を行ってきた。さらに、平成16年からは本校独自の植栽活動である「花プロジェクト」に取り組んでいる。これは校庭中庭にある「ゆめ花壇」、校舎周辺の「ます花壇」、校舎フェンス脇の「フェンス花壇」などで行っている活動である。

「ゆめ花壇」は正面玄関脇の中庭に設けられた花壇で、校木であるイチヨウの葉をイメージした形をして

いる。色鮮やかな宿根草が数多く植えられており、四季を通じて子供たちの目を楽しませる憩いの場となっている。現在はブルーベリー等の果樹も植樹し、収穫を楽しみに待つ子供たちで賑わっている。

「ます花壇」は保護者や地域の方とともに土起こしをし、温室で育てたマリーゴールド等の苗を移植する。

「フェンス花壇」は学年ごとに範囲を決めて、キバナコスモスの種をまき育てている。夏から秋にかけてできるフラワーロードを地域の方とともに楽しんでいる。

今後 地域の方が種をもち帰り 街路樹や個人の庭に

本校のフェンス花壇でキバナコスモスが見事に咲いているのを見た地域住民が、秋の種採取の時に種をもち帰り、それぞれの自宅や幹線道路の街路樹花壇に植えるようになり、キバナコスモスは地域一帯に広がっている。このように、学校から始まった取組が地域に広がったようすは、児童にとっては誇りともなり、また花を通じて地域と学校がより近づくことにもつながった。

花を植え、育てることで地域全体が自然に興味をもち、気候の変化や季節の移り変わりを意識するようになり、環境について考えるようになると思う。



フェンス花壇のキバナコスモス

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

子供たちにとって、学校や通学路は季節の移り変わりをを感じる恰好の場所。中庭にはリンゴやブルーベリー、グミの木が植えてあり、子供たちは自由に実を食べることができます。また、中庭花壇は校舎の上階から見下ろすと、校木であるイチヨウの葉の形をしています。このようなことから、植花活動にも一層興味をもって取り組み、すすんで世話をすることができるのではないかと感じています。

小学校の事例 東区 栄町小学校

区での活動を継承した栽培活動。一人一鉢の責任感を育て、花育、そして環境教育へつながる取組に。

「花とぴあ」という東区の活動を受け継ぎ、校内で栽培活動を開始。一人一鉢で責任感が向上、学校の美化・緑化をととして環境保全。身近なこと、日常的なことから環境意識を高めるように工夫を。



内容 一年をととして校内で花の栽培・観察を実施

以前に東区で行われていた「花とぴあ」という活動を学校で受け継ぎ、4年生の総合的な学習の時間で栽培活動を行っている。学校花壇や玄関前にキンセンカ、バーベナ、コスモス、スイートアリッサムなどを植えて、自分たちの学校を美化・緑化することで環境保全につながっている。総合的な学習の時間で一年間

かけて栽培・観察する。また、ゲストティーチャーとして教員OBや緑のセンターの方を呼んで出前授業を実施。肥料や土づくりについて専門的知識があり、植える際にも協力してくれる。また、全校的な一人一鉢活動も行っている。

効果 温暖化防止の意識が向上

一人一鉢活動の栽培は一人一鉢ずつ管理するので、責任感をもって取り組むことができる。また、花を植えることで学校が飾られ、環境保全にもつながると考えている。

自分の育てている花が地球の環境保全に役立つということで、日頃から環境を意識した生活を送っている。

今後 身近なことから意識を高める工夫を

花の苗はPTAの協力なども得て購入しているが、学校予算が年々減っており、また総合的な学習の時間も減っていくので、ゲストティーチャーの招へいや出前授業を取り入れるなど、工夫して様々な活動に取り組んでいきたい。



植栽後手入れされた花

子供たちにとって目に見える物が一番効果的。実際に体験することは本当に貴重な経験である。また、「毎日使用している文房具は一体何からできているのか?」「費用はどれくらいかかっているのか?」など

という疑問から、実態を知り、限りある資源(物)を大切にしようという意識へつなげるなど、身近なこと・

日常的なことを取り上げることで、子供たちの興味・関心も高まり、意欲的に取り組むことができるのではないだろうか。

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

エコロジーの真実とは何か?たくさんの情報が飛び交う中、何が正しいのか、信頼できる情報元を教師も模索中です。子どもに誤った情報を伝えたくないの、子どもとともに情報をただ受け取るだけでなく、それを見極める力を身につけることが必要だと感じています。